

－ 企業の将来性と自分の強みを伸ばす成長性を重視した企業選びが特徴 －

はじめに

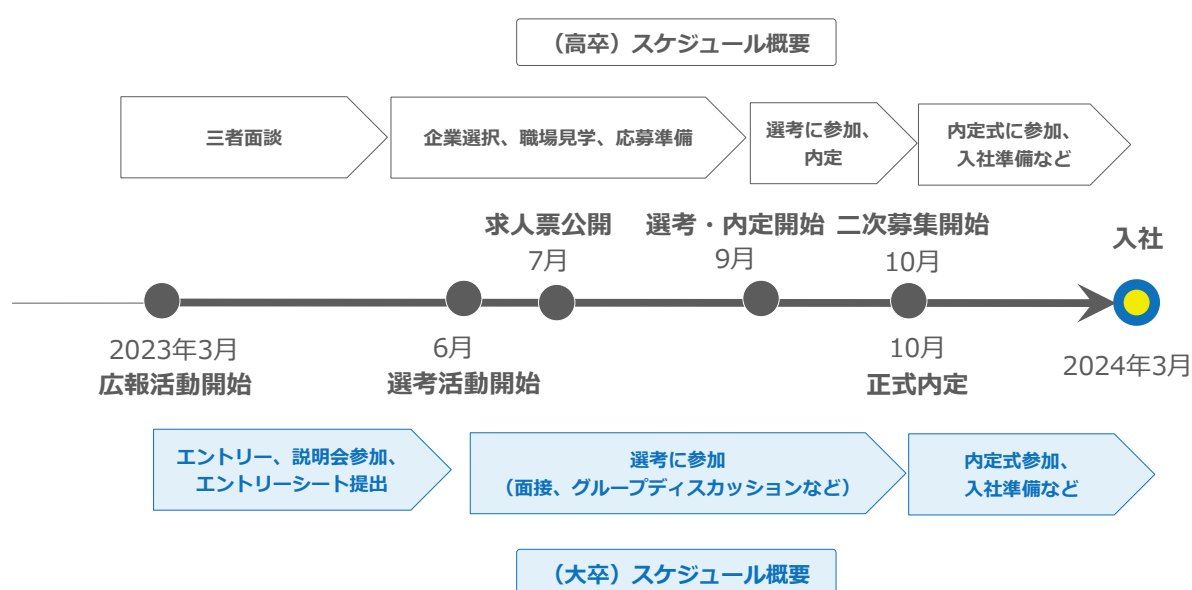
政府の就職・採用活動日程ルール（以下、就活ルール）では、2024年3月卒業の新規学卒者の就職活動（以下、23年度卒の就職活動）は前年と同様のスケジュールで進められ、大学等卒業・修了予定者の正式な内定日は23年10月以降となっている（図表1）。ただし、実態としては、大学・大学院生（23年度卒）が最初に内々定を受けた時期をみると、23年3月や4月との調査結果（内閣府「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査（令和5年度）」）にあるように、企業による採用選考は早期化している。

県内においても同様の傾向が示されている。新潟労働局の調査では、23年10月末の県内の新規学校

卒業者（23年度卒）の就職内定率は、大学等卒で69.3%となった。これは19年10月末（68.9%、20年3月卒業）を上回り、調査を開始した1971年以降で最も高くなった。また、高校卒では87.0%と、10年連続で80%を上回った。その後、2024年2月末での就職内定率は大学等卒で93.0%、高校卒で98.5%といずれも高い水準で推移している。

こうしたなか、県内企業（事業所を含む）に就職した23年度卒の新入社員を対象に、当社が開催した新入社員研修でアンケート調査を実施した。以下はその結果である。

■ 図表1 23年度卒の新規学卒者の就職活動スケジュール



資料：内閣官房のWebsite、新潟労働局のWebsiteを参考に当社で作成

アンケート調査の結果

(1) 新潟県内に就職した理由

－「自宅から通勤できるから」が4割弱でトップ－

新潟県内に就職した理由を尋ねたところ、「自宅から通勤できるから」の割合が37.5%と最も高くなった(図表2)。以下「就職したい企業があったから」(19.2%)、「新潟に愛着があるから」(19.0%)、「地元で貢献したいから」(11.3%)などの順となった。

前回調査と比べると、「新潟に愛着があるから」の割合が上昇した。

回答者からは新潟県内に就職した理由として、「生まれてから今まで長岡で育ち、長岡が大好きなので地域に恩返しすることを考えていた。就職した企業では、地域に貢献することを理念としているので、この企業で頑張りたいと思った」(専門卒、女性、地元就職)、「地域の行事に参加したり、イベントに協賛したりするなど、地域と密接に関わっている点に興味を持った」(大卒、男性、Uターン就職)といった、地元との繋がりや貢献度をあげる意見が寄せられた。

(2) 現在の企業(職場)を選んだ理由(決め手)

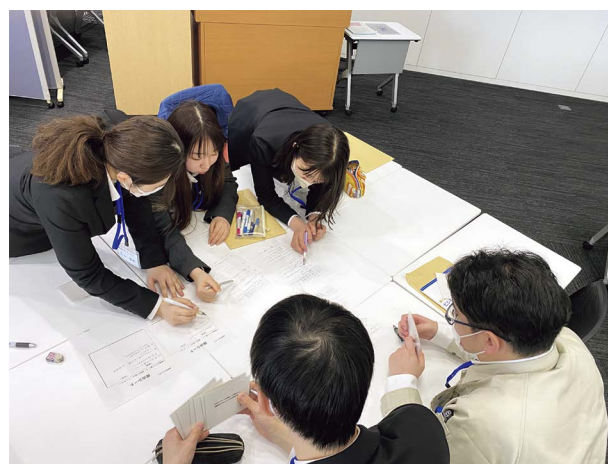
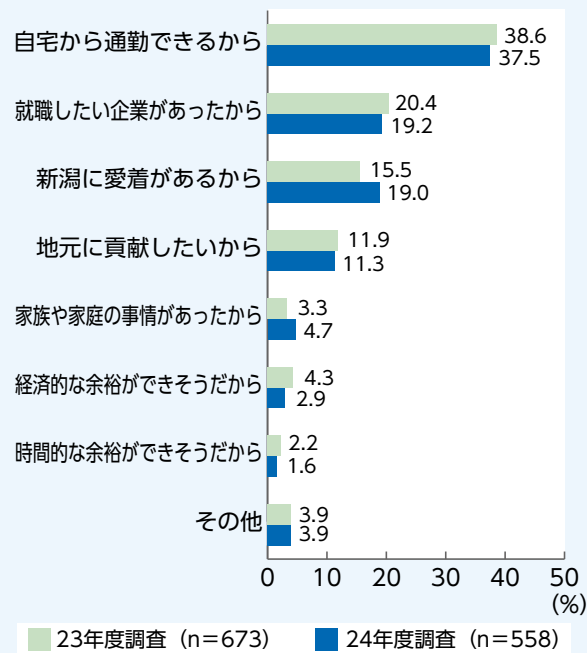
－「将来性を感じられる」が上昇－

現在の企業(職場)を選んだ理由(決め手)を尋ねたところ(複数回答)、「企業の雰囲気、社風が魅力的である」の割合が38.9%と最も高くなった(図表3)。以下「自分の能力や技術が生かせる」(32.4%)、「希望の業界、業種である」(32.3%)などの順となった。

前回調査と比べると、「将来性を感じられる」「希望の業界、業種である」の割合が上昇した一方、「希望の勤務地で働くことができる」が大きく低下した。

地元就職か、Uターン就職か、Iターン就職かといった就職形態別にみると、地元就職では「自分の能力や技術が生かせる」の割合が他の就職形態に比べて高くなった。Uターンでは「希望の業界、業種

■ 図表2 新潟県内に就職した理由



▲24年3、4月に実施された新入社員研修の様子
受講生同士のロールプレイング、グループワークなどが実施された

である」、Iターン就職では「将来性が感じられる」が他の就職形態に比べて高くなった。

回答者からは、「企業の雰囲気、社風が魅力的である」「希望の業界、業種である」「希望の職種である」ことが決め手であったとの声が多数あげられた。さらに、IT技術の急速な進化などを背景に、「将来性が感じられる」といった企業の展望のほか、「この企業で勤務することが自分の能力の伸長に繋がる」など、自身の成長といった視点を企業選びの軸としている意見が寄せられた。なお、「企業の雰囲気、社風」や「希望の業界、業種」「希望の職種」のほか「自分自身の成長」「将来性」などについて、具体的に以下のような声が聞かれた。

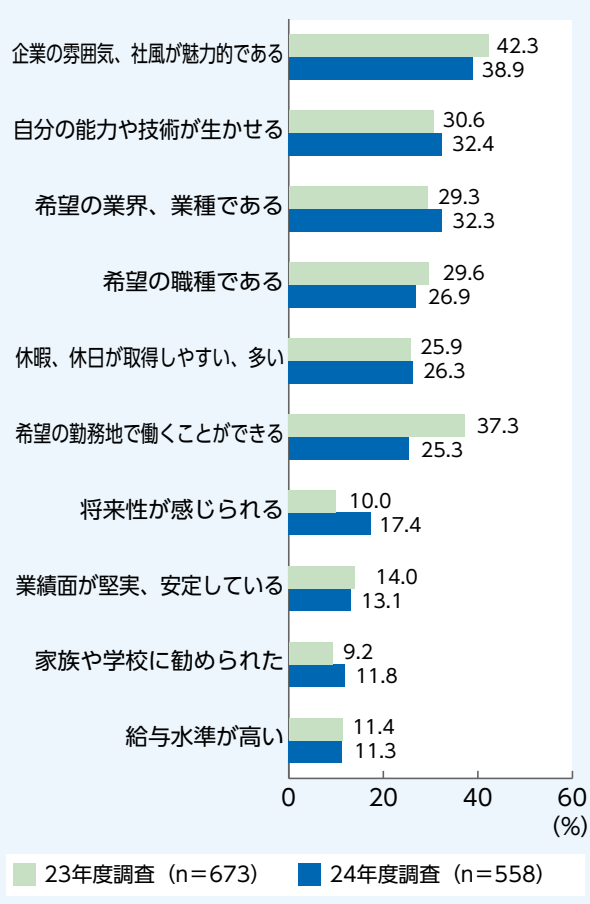
【企業の雰囲気、社風】

- ・忙しい業界であるにもかかわらず、社内の雰囲気が穏やかで良かった。自分の仕事に対して信念を持ち、お互いを理解し合っているからこそその社風だと思った。自分もこの企業なら気持ち良く働けると思った（その他、女性、地元就職）
- ・社員が満足できるまで働くことができる環境が整っている点や地域で一番の企業になるため、貪欲にチャレンジしている点に惹かれた。方向性や取り組みが自分の考え方とマッチしていると思い、この企業を選んだ（大卒、男性、Iターン就職）
- ・「社員のサポートが手厚い」と社内の雰囲気をPRしていた。実際、困っていたら声をかけてくれる社員の方が多く、説明会や採用段階など、様々な場面で助けられた（高卒、女性、地元就職）

【希望の業界、業種】 【希望の職種】

- ・システム開発に携わりたいと考えており、様々なシステムの開発実績があったことに魅力を感じた（男性、専門卒、地元就職）
- ・もともと働いてみたい職種であったことに加え、生活と仕事との両立を考えたとき、自分に合った業務時間を選んで働く制度が整っていることが必要だと思い、入社を決めた（大卒、女性、Uターン就職）

■ 図表3 現在の企業（職場）を選んだ理由（決め手）
（複数回答、上位項目のみ）



【自分自身の成長】 【将来性】

- ・海外を視野に入れた事業展開に興味を持った。安定した事業にあぐらをかくことなく、挑戦的姿勢を貫いているところが、入社を決める決意の一つとなった（大卒、女性、Iターン就職）
- ・AIの導入が進むなか、この業界、この企業がどのようにして生き残っていけるかを示してくれて、安心できた（女性、専門卒、地元就職）
- ・一番の決め手は安定性、将来性である。経済状況の変化があっても、需要が低下しない商品を提供し続けているため、新型コロナウイルス禍でも影響を受けなかったという点が大きかった（大卒、男性、地元就職）
- ・企業の成長プランだけでなく、社員の人材育成プランが示され、将来を見据えた計画があることに

魅力を感じた（高卒、男性、地元就職）

- ・通常業務のほかに、研修内容についても詳細な説明があり、自身が成長できる場が多くあることが良かった（高卒、女性、地元就職）
- ・未経験者に対する教育体制が整っており、これまでの育成実績も公表していた。定着率の高さはこうした充実した育成の結果だと納得した（大卒、女性、Uターン就職）

（3）就職活動で特に参考となった情報収集の方法

－『対面』での方法が前回調査と比べて上昇－

就職活動で特に参考となった情報収集の方法を尋ねたところ（複数回答）、「対面形式の合同企業説明会」の割合が46.4%と最も高くなった（図表4）。以下「対面形式の個別企業の説明会」（27.6%）、「企業のホームページ」（26.5%）、「就職情報サイト」（26.3%）、「学内の説明会」（22.4%）、「対面形式のインターンシップ」（21.1%）などの順となった。

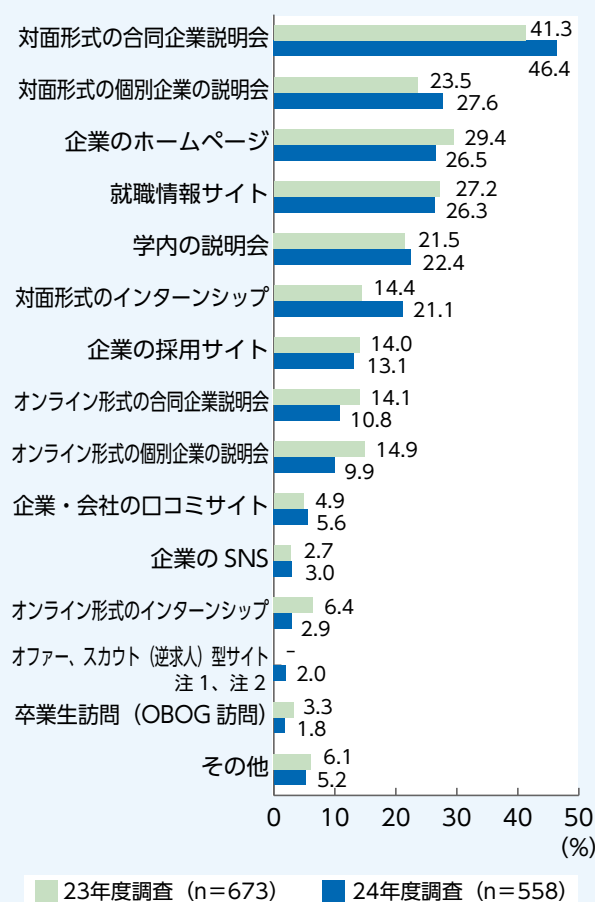
前回調査と比べると、「オンライン形式の個別企業の説明会」「オンライン形式のインターンシップ」などの割合が低下した一方、「対面形式のインターンシップ」「対面形式の合同企業説明会」などが上昇した。

回答者からは、自分の知らなかった企業を知ることができる機会として「合同企業説明会」が参考になったとの意見があげられた。多くの企業が参加する合同企業説明会のなかでも、説明の仕方や全員に対する説明の後、個別での相談に対応する体制を作るなど、工夫がみられた企業に対して好印象を抱いたとの声も寄せられた。なお、「インターンシップ」では、企業に訪問し、感じる事ができた業務内容や社内の雰囲気、オフィスの様子が企業を選ぼううえで参考になったとの声があった。

【合同企業説明会】

- ・業務や働く環境など、説明する内容が企業ごとに違っていたので、飽きずに聞くことができた。多

■ 図表4 就職活動で特に参考となった情報収集の方法（複数回答）



注1：オファー、スカウト（逆求人）型サイト：学生が自身のプロフィールや希望条件等を登録し、企業側が情報をみて学生にオファーを送ることで両者の接点が始まるという就職活動の方法
注2：オファー、スカウト（逆求人）型サイトは24年調査から選択肢に追加

くの企業を知ることができて視野が広がり、選択肢が増えたと思う（専門卒、男性、地元就職）

- ・就職した企業は合同説明会のなかでも特に説明に熱意があり、関心を持った（大卒、男性、Uターン就職）
- ・対面の合同企業説明会で、個別に席が設けられており、話を聞いていただいた。人前だと聞きにくいことも一対一では話やすく、こうした機会があったことがありがたかった（大卒、女性、Uターン就職）

【インターンシップ】

- ・実際の仕事をロールプレイング形式のチーム対抗ゲームで体験させてもらった。BtoBの企業でどんな仕事なのかを普段知る機会があったため、大変参考になった（大卒、女性、Uターン就職）
- ・インターンシップで訪問した際に、社員同士の上下関係のフラットさや会社の雰囲気が魅力的であり、仕事に向かう姿勢も丁寧な企業が印象に残った。自身の専門分野と全く違う企業だったが、選考に進みたいと思った（その他、男性、地元就職）
- ・個別説明会という開催方法だったが、インターンシップのように、業務を体験させてくれた。体験がない場合と比べて、自分が働くイメージのしやすさが格段に高くなった（大卒、男性、地元就職）

【その他】

- ・仕事とプライベートとの両立ができるとの説明があり、興味を持った。企業の口コミサイトでも残業が少ないと書かれており、安心した（大卒、女性、地元就職）
- ・オファー型サイト（図表4・注1）を活用した。就職活動の開始段階では、具体的な将来の方針が決まっておらず、受け身の状況であったため、自分の経験や関心などに合った企業や業界からオファーが来る方法は方向性を決めるうえで良かった（大卒、男性、Iターン就職）

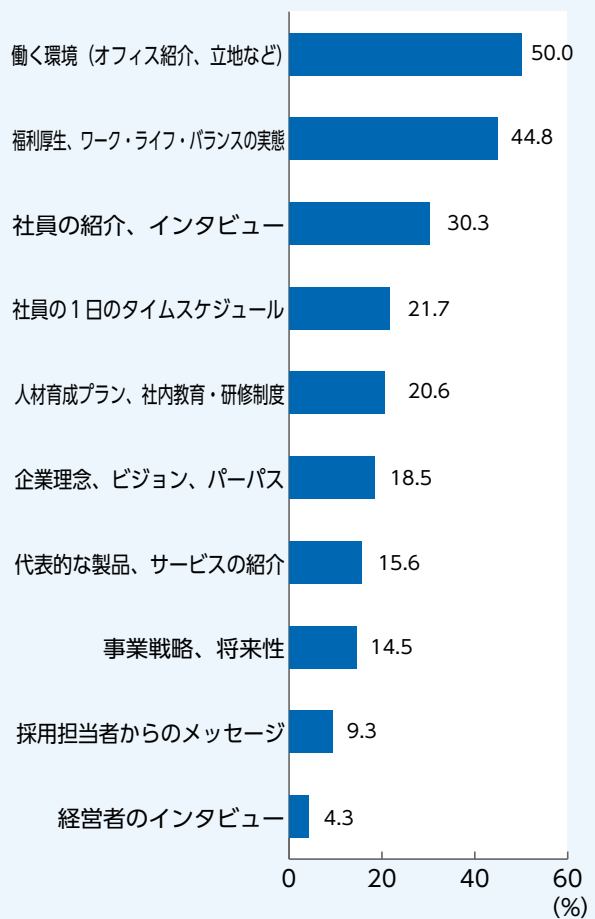
（4）就職活動で特に参考となった内容

－「働く環境（オフィス紹介、立地など）」が半数でトップ

就職活動において特に参考になった内容を尋ねたところ（複数回答）、「働く環境（オフィス紹介、立地など）」の割合が50.0%と最も高くなった（図表5）。以下「福利厚生、ワーク・ライフ・バランスの実態」（44.8%）、「社員の紹介、インタビュー」（30.3%）などの順となった。

回答者からは、「建物やオフィスに清潔感があった。毎日の掃除など、きれいに保つための社員の行

■ 図表5 就職活動で特に参考になった内容
（複数回答、上位項目のみ）



動に好感を持った」（高卒、女性、地元就職）、「女性が少ない現場でも、社員からの改善提案を積極的に取り入れて、快適な環境を実現していた。作業現場も見せてもらい、常に社員にとってより良い状況にしようと努力している姿がわかった」（高卒、女性、地元就職）など、職場の清潔さや設備の充実といったハード面のみならず、働く環境を改善しようという社内の雰囲気や行動を評価する声が寄せられた。

また、「福利厚生、ワーク・ライフ・バランスの実態」では、「働き方に対する考え方が先進的だった。フレックスタイムや私服勤務などの制度をいち早く取り入れており、働きやすい職場だと感じた」（専門卒、男性、地元就職）、「資格取得に対する支援制度が充実しており、学習のモチベーションを保つことができると

思った」(大卒、男性、Iターン就職)などの意見があげられた。さらに、国など行政による制度や認定を参考にしているといった声も寄せられており、「地域内で唯一のユースエール認定(若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業を厚生労働大臣が認定する制度)を獲得している企業なので、若手が受け入れられやすい職場だと思い、選考を受けた」(大卒、男性、地元就職)、「健康経営優良法人の認定を取得していて、残業時間が少ないとアピールしていた。社員同士の雰囲気も良く活気があり、安心感があった」(高卒、男性、地元就職)など、こうした制度や認定は働きやすさの基準の一つとして学生の認知が広がりつつあることがうかがえる。

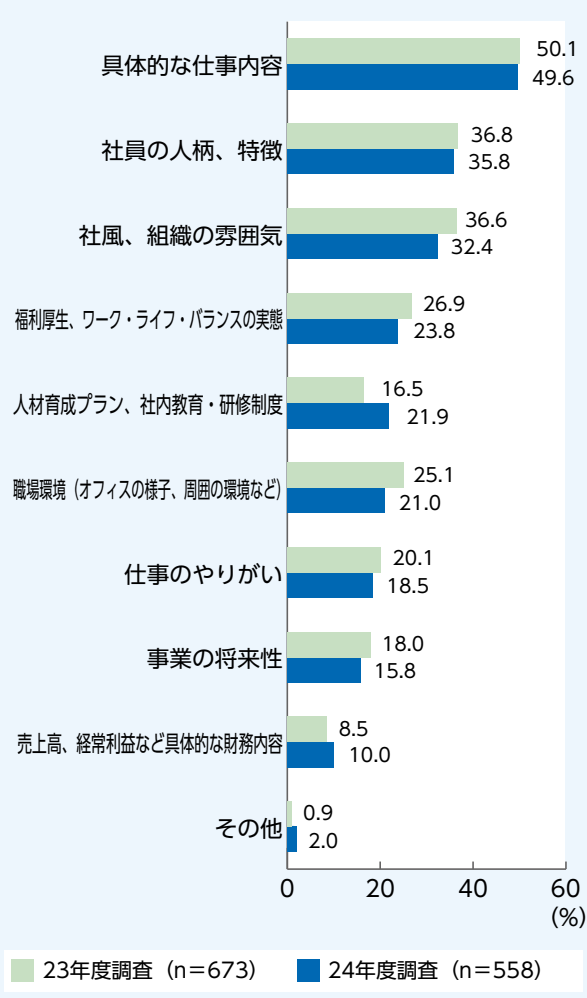
(5) 就職活動でもっと知りたかった企業の情報

－「人材育成プラン、社内教育・研修制度」が上昇－
就職活動でもっと知りたかった企業の情報を尋ねたところ(複数回答)、「具体的な仕事内容」の割合が49.6%と最も高くなった(図表6)。以下「社員の人柄、特徴」(35.8%)、「社風、組織の雰囲気」(32.4%)などの順となった。

前回調査と大きな違いはみられなかったものの、「人材育成プラン、社内教育・研修制度」の割合が上昇した。なお、「働く環境(オフィス紹介、立地など)」は「(4) 就職活動で特に参考となった内容」でトップとなった一方、本問では「職場環境(オフィスの様子、周囲の環境など)」が21.0%にとどまっていることから、職場環境については企業側の情報発信に学生がある程度満足していることがうかがえる。

回答者からは「教育制度について知りたかったが、入社後の研修回数しか教えてくれない企業もあった。就職を決めた企業は、1～3年目での仕事の役割、求められる目標まで明確に説明してくれた。抽象的ではなく、具体的に示してくれたので安心できたと思った」(大卒、女性、Iターン就職)などの意見があげられた。また、「若手社員から話を聞く機会があった。

■ 図表6 就職活動でもっと知りたかった企業の情報(複数回答、上位項目のみ)



上司は席を外す配慮があったので、正直な話や若手から見た会社の実態が知ることができて参考になった」(大卒、男性、Uターン就職)、「説明会で質問をすると、担当の方を呼んできてくれて、細かい内容まで聞くことができたので、選考に役立った」(大卒、男性、Uターン就職)など、質問にすぐに回答する、質問しやすい場を作るといった工夫により、学生は知りたい情報を聞き出すことができると思われる。

(6) 入社した企業との関係

－「定年まで働きたい」は34.6%－

入社した企業との関係について尋ねたところ、現段階では「定年まで働きたい」の割合が34.6%と

最も高くなった（図表7）。「定年まで働きたい」は過去3年間で最も高くなり、新型コロナウイルス感染拡大前に実施した19年度調査（33.6%）と同水準となった。一方、「ライフステージ（パートナーや家族の状況、出産など）に合わせ、転職もありうる」（21.7%）、「今の企業で不満があれば、転職もありうる」（15.4%）、「より良い条件（給与、仕事内容など）の企業があれば、転職もありうる」（11.3%）、を合わせた『将来的な転職を視野に入れている』との回答は48.4%となった。

（7）就職活動で魅力的だと感じた企業

就職活動で魅力的だと感じた企業について、その内容や工夫されていたことを尋ねたところ、具体的には以下のような声が寄せられた。特に「自分の強みを生かせる場、引き出してくれる人がいる」に関する回答が最も多くみられた。

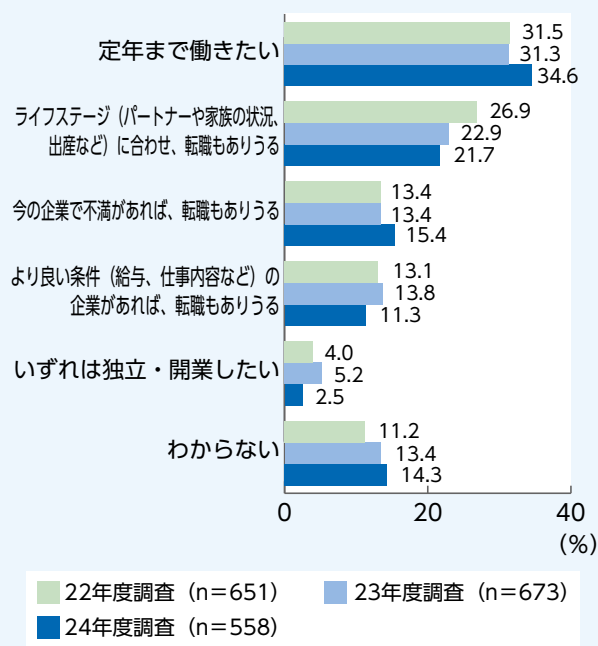
【自分の強みを生かせる場、引き出してくれる人がいる】

- ・自分の長所や長所を生かして活躍できる部署を提示してくれた。自分の長所を改めて見つめ直すことができ自己分析にも役立った。自分に合う職場だと思うので、大変なことでも乗り越え、一人前になったときのやりがいを早く感じたい（専門卒、男性、地元就職）
- ・自分が大学で学んでいた分野に合わせて、どういった仕事内容が関連しているか、どういった場面で知識が活かせるかを示してくれた（大卒、女性、地元就職）
- ・人事担当者が自分の能力が伸ばせる職種や部署について、自社の中で最もふさわしい場を一緒に考えてくれた（大卒、女性、Uターン就職）

【社員を大切にしている】

- ・従業員に対して満足度調査を実施していて、その結果を開示してくれた。従業員の意見を大切にしている企業だと感じた（高卒、女性、地元就職）
- ・社員のキャリア開発支援のため、キャリアコンサルタントを配置する、セクハラ・パワハラなどの

■ 図表7 入社した企業との関係



ハラスメント対策講義を実施するといった取り組みは、社員目線で考えてくれていて働きやすいと思った（高卒、男性、地元就職）

- ・企業訪問や面接で、社長自らが出席しているのを見て、新入社員でも重視してくれる姿勢が伝わってきた。企業に対する信頼感が向上した（大卒、男性、Iターン就職）
- ・こんな仕事をしてみたいといった理想を聞き、それに対するプランを立ててくれた。社員一人ひとりを見て、困ったときの道を示してくれる会社だと感じた（大卒、女性、Iターン就職）

【地域や社会への貢献度が高い】

- ・就職した企業は温暖化防止に役立つ取り組みを実施している。人に対してだけでなく、環境にも貢献できるところに惹かれた（専門卒、女性、地元就職）
- ・住民の方々と関わり、地域をより良くする取り組みをおこなうなど、地域と密な関係を構築していることが企業選びの決め手だった（専門卒、女性、地元就職）
- ・利益の追求だけでなく、環境への配慮を会社目標

に掲げ、お客様や社員の働き方を重視している企業に就職したいと思った（大卒、男性、地元就職）

まとめ

今回の調査では、現在の企業（職場）を選んだ理由（決め手）として、「企業の雰囲気、社風が魅力的である」が最も高くなったとともに、前回調査と比べると、「将来性が感じられる」が大きく上昇した。具体的には会社の将来性のほか、自身の能力を伸ばすことができる職場かどうか、といった点を重視する意見が寄せられた。さらに、魅力的な企業を「自分の強みを生かせる場、長所を引き出してくれる人がある」とする声も多くみられた。

また、就職活動でもっと知りたかった企業の情報では、「人材育成プラン、社内教育・研修制度」が前回調査と比べ高くなるなど、新入社員の成長意欲の高さがうかがえる一方、企業の教育体制そのものや関連する情報の発信が不十分であることが示された。こうしたことから、一人ひとりの能力や特性を生かすため、企業は研修制度や人事制度の整備を進めていくとともに、丁寧に説明することが学生に対するアピールポイントとなると思われる。

(2024年5月 近)

【調査の要領】

1. 調査時期 2024年3月～4月
2. 調査方法 無記名アンケート方式
新入社員研修の会場で調査票を配布し、Webで回答
3. 調査の対象者 当社の新入社員研修に参加した、2024年春に新潟県内の企業・団体に就職した新入社員
4. 回答者数 有効回答 558人

		人数	構成比 (%)
合計 (内訳)		558	100.0
性別	男性	375	67.2
	女性	175	31.4
	その他	2	0.4
	回答しない	6	1.1
最終学歴	高校	154	27.6
	短大	13	2.3
	専門学校	136	24.4
	大学	225	40.3
	大学院	21	3.8
	その他	9	1.6
就業形態	地元就職	431	77.2
	Uターン就職	75	13.4
	Iターン就職	52	9.3
業種	製造業	192	34.4
	卸売業	52	9.3
	小売業	29	5.2
	サービス業	108	19.4
	建設業	81	14.5
	その他	96	17.2

(注) 図表の数値は四捨五入をしているため、回答割合の合計が100.0%とならない場合がある



▲新入社員研修の様子

「ブレインストーミング」の手法を使ったグループワークでは様々なアイデアが出された

